

<b>重点施策</b> 確かな学力の育成	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">評価実施者</td> <td>所 属</td> <td>教育支援課</td> </tr> <tr> <td>職・氏名</td> <td>課長 吉川 修</td> </tr> </table>	評価実施者	所 属	教育支援課	職・氏名	課長 吉川 修
評価実施者	所 属		教育支援課			
	職・氏名	課長 吉川 修				

重点施策の概要	目的	学ぶ意欲を高め、望ましい学習習慣を身に付けさせるとともに、自ら学び、自ら考え行動する力を育み、身につけた知識・技能を活用する能力の育成を図ります。そのため児童生徒の学力の実態を把握し、指導方法の改善を図るなど、個に応じたきめ細やかな学習指導を行います。
	今年度の主要事業	①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進 ②放課後学習、家庭学習など学習習慣化の推進 ③少人数学級実践研究事業(小学校3・4年生35人学級)の推進 ④学びサポーターの全校配置 ⑤外国語指導助手を活用した外国語教育の充実

事業の目標と実績	区 分		単位	H24	H25	H26	特記事項
	1	小学生国語活用問題の全道平均正答率と本市の比較	目標	%	上回る	上回る	
		実績		同程度	同程度	同程度	
2	小学生国語活用問題標準偏差の全道との比較	目標	ポイント	2.2	2.2	2.2	市:全道の比較 目標に到達
		実績		2.4:2.6	2.5:2.5	2.2:2.4	
3	中学生数学活用問題の全道平均正答率と本市の比較	目標	%	上回る	上回る	上回る	H26は2.0ポイント下回る
		実績		同程度	同程度	同程度	
4	中学生数学活用問題標準偏差の全道との比較	目標	ポイント	3.4	3.4	3.4	市:全道の比較 拡大する結果
		実績		3.7:3.9	4.0:4.0	3.7:3.9	
5	小学生 家で授業の復習をする 全道との比較	目標	%	66.8	66.8	66.8	市:全道の比較
		実績		57.8:57.6	56.6:59.1	62.1:62.6	
6	中学生 家で授業の復習をする 全道との比較	目標	%	54.8	54.8	54.8	市:全道の比較
		実績		51.9:50.0	57.4:54.3	52.7:55.7	
7	小学生 家で一日1時間以上勉強 全道との比較	目標	%	50.3	50.3	50.3	※平日
		実績		36.9:47.3	39.0:50.5	35.7:51.4	市:全道の比較 年々減少
8	中学生 家で一日1時間以上勉強 全道との比較	目標	%	80.0	80.0	80.0	※平日
		実績		56.4:58.8	54.3:62.1	54.3:62.1	市:全道の比較 減少

事業の分析効果の検証	①少人数指導(T・T指導)や習熟度に応じた指導の推進...小学校算数の基礎基本の定着を図ることができ指導の成果が見られた。配置数 小学校6人 中学校2人(前年度から1名減) ②放課後学習、家庭学習など習慣化の推進...「家庭学習の手引き」の活用を図った。 ③小学校3・4年生の35人学級...きめ細かい見守りと指導の充実ができ、また教師が子どもと向き合う時間が増え個別の支援に成果があった。26年度⇒第一小4年生・第二小4年生 ④学びサポーターの全校配置...困り感のある子の学習支援や発達に課題のある子など個別の指導と支援をはかり、担任と連携により安定した学級運営と指導支援の向上に成果があった。26年度⇒14人配置 ⑤外国語指導の充実...英語教師のアシスタント役としてALTを5名配置して、英語教育の充実を図った。
------------	--

課題	①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進...複数配置や習熟度配置の際の指導内容の一層の充実が必要 ②放課後学習、家庭学習など習慣化の推進...学校と保護者が連携した取り組みの充実が必要 ③小学校3・4年生の35人学級...5・6年生に40人学級に戻ることから、少人数指導の充実が必要 ④学びサポーターの全校配置...発達に課題のある子、相談室登校の子への支援策の充実が必要 ⑤外国語指導の充実...ALTの効果的な活用を進め、子どもたちの興味関心を高める取り組みが必要
----	--

評価	<b>A</b>	<b>評価の視点1 期待どおりの効果があったか</b> 学力向上の施策や滝川独自の人的配置の取組などの施策により、基礎基本の定着も見られた。家庭学習の習慣化は、引き続き課題である。  <b>評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか</b> 少人数学級実践事業の対象学年の拡充や家庭学習の習慣化につながる施策の充実を図りたい。
----	----------	---

【評価の区分】

- A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
- B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
- C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
- D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	27年度も引き続き施策を継続するとともに、学力や学習意欲が高まる施策を展開する。 ■ 拡充 □ 縮小・統廃合 □ 質的向上 □ スピートアップ □ 検証 □ 継続
-----------	--

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	特になし
---------------	------